

「旅は行くまでが一番楽しい？」土手

4月になったばかりというのに、もう夏かと思うぐらい暑く感じる日もあるものの、やっと外出しやすい季節になりました（花粉症の方はごめんなさい）。先日、新名神高速道路（神戸～高槻間）が開通し、遠出をするのがまた一つ便利になりましたね。ただ便利になった反面、同じ目的地に行くのに「新旧道路」や、「右ルート、左ルート」など運転手が突如判断を迫られるポイントが数多くあり、悩ましいのが実際のところ。そんな不安を払拭するためにも、「旅も仕事も段取り8割！」と格言？にもあるように、きっちり事前準備をしてこれからの旅行シーズンを迎えられるればいいと思います。

先日終了した「めっちゃ×2イケてる」のTシャツが手に入りました！⇒



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【SDGs (Sustainable Development Goals)】

直訳は「持続可能な開発目標」。国際社会の持続可能な発展のために2015年の国連サミットで採択された。17の目標と169のターゲットを掲げ2030年までに達成することを目指している。具体的には貧困や飢餓の撲滅、ジェンダー（性）の平等、環境対策、疾病対策や教育水準の向上など、発展途上国と先進国が抱える問題を包括している。採択文書には国や自治体の取り組みの他に、企業の技術革新も必要と記載されている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【教育が国の未来を創る「島津斉彬」】

薩摩藩の発展に寄与した島津斉彬（なりあきら）は1805年、江戸の薩摩藩邸で生まれました。外国船が日本に來航し、江戸幕府の鎖国体制にほころびが見え始めた頃です。この時期はイギリスを皮切りに産業革命が起こり、後に斉彬も薩摩で殖産興業政策を展開して日本近代化の礎を築きました。



そんな斉彬の才能を見だし、かわいがったのが曾祖父・重豪（しげひで）でした。早くから異国の文化や学問に注目した重豪は、中国語を話し辞書まで作ったといひます。シーボルトが江戸に來た折には、若い斉彬を従えて面会し斉彬が海外に目を向けるきっかけを作りました。島津家の後継者として期待されながら父・斉興（なりおき）がなかなか家督を譲らず、

斉彬が藩主になったのは42歳の頃でした。江戸の暮らしが長かった斉彬は、薩摩の家臣たちを見て学問が足りないと感じ、さまざまな教育施策を実行します。「学問を好まぬ藩主は国家の大罪人」「学問のあり方は政治の根本」との信念から、自らも国内外の知識を貪欲に吸収しました。民衆の暮らしの安定にも尽力し農業や火砲鑄造、ガラス生産などの産業振興を進めます。49歳の若さでこの世を去った斉彬ですが、大久保利通や西郷隆盛など優れた人材を多く輩出し、斉彬の遺志を継いだ彼らは、明治維新を通じて斉彬が描いた日本の近代化を実現したのでした。

今を生きる
先人の言葉

ストレスは人生の
スパイスである

カナダの生理学者であるハンス・セリエの言葉。適度なストレスを与えると野菜は甘みを増す。ストレスと上手に付き合うことで人生はより豊かになるだろう。

トレンドを斬る!

「ツッコミかるた」が面白いと人気です。表面に「ツッコミ」、裏面に「トークテーマ」が書かれたカードを、ツッコミの面を上にして20枚並べ、真ん中に置いた1枚のテーマに従ってトークを開始します。誰かがボケて、それに応じたツッコミ札を取ると得点が入るというルールは簡単。ボケとツッコミの掛け合いを家族や友人とワイワイ楽しめると評判です。ボケとツッコミの応酬も長時間続いて頭が疲れることもたびたびですが、脳の活性化にはいいかもしれませんね。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【信頼と信用が崩壊するとき】

A氏がクリーニングに出したジャケットが破損して戻ってきたそうです。あらかじめ破損の可能性を知らされていたので仕方ないと納得したものの「こんなにひどいヒビ割れは今まで見たことがない」と受け付けの



店員も驚くほどの状態なのに、取りに行くまで何の連絡もなかったことにA氏は違和感を覚えたそうです。A氏も会社を経営する立場。トラブルの対処は初動が肝心だと常々肝に銘じています。そこで、その店員に「こういう場合はどうされるのですか?」と聞いてみると「弁償はできませんがクリーニング代をお返しして、ご迷惑料として一律5000円をお支払いしています」とのこと。

今まで見たこともないくらいひどい状態だと言いながら「一律」とは・・・。

どんな会社なのか逆に興味がわいたA氏は「弁償は望みませんが、上の方から一度お電話いただけませんか」とお願いしてみました。その翌日、クリーニング店からの電話に出られなかったA氏がコールバックすると、電話口の人が明るく元気にこう言ったそうです。「あのクレーマーの方ですね!」。店員にまったく悪気がないのは分かりました。このクリーニング店では、店員同士が「クレーマー」という言葉を日常的に気軽に使っているのだろうと感じられたからです。裏では「お客」、表では「お客さま」。それと同じノリで「クレーマー」に「方」を付けて「クレーマーの方」というおかしい言葉を編み出したのだろうと想像し、A氏は怒るというより笑ってしまったそうです。そして同時に、これが自分の会社だったらと考えて背筋がゾツとしたのです。会社が築いてきた信頼や信用は、たった一人の、たった一言で、いとも簡単に失われてしまうことがあります。A氏は朝礼で「日頃の自分が仕事にも表れます。日常こそ自分を磨く場です」と話し、自分も襟を正したのでした。



ところで、経営者にとって世にも怖い話の結末は、クリーニング代の返金と、茶封筒からおもむろに取り出された迷惑料1万円。結局オーナーは登場せず、A氏は言われるままに1万円の領収書を書いたそうです。

トナリの

本棚



【行動経済学まんが ヘンテコノミクス】

人は、道理に合わない損をする行動を起こすときもあります。その理由を漫画で分かりやすく伝えていきます。扉に落書きをした少年たちに、何をすればやめさせることができるのか? 発見と驚きが楽しい一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております (O) (O) (O) (O) (O) (O)